

パネルディスカッション (A1)

ものづくり・サービス・IoTの結合と新たな知財戦略  
～オープン&クローズ戦略とソフトウェアをいかに駆使するか～

## IoT時代の知財のニューフロンティア

2016年1月25日  
株式会社 日立製作所  
知的財産本部長  
鈴木 崇

# Contents

---

1. 日立のビジネス状況
2. 知財から見たチャレンジ

# Contents

---

1. 日立のビジネス状況
2. 知財から見たチャレンジ

## IT+Productsを活用して社会イノベーション事業を展開

お客さま

フロント機能\*1

(営業、エンジニアリング、SI、コンサルティング)

ヘルスケア エネルギー 金融 都市 …

アナリティクス・制御機能  
(共通プラットフォーム\*2)

情報プラットフォーム事業

制御プラットフォーム事業

プロダクト・ソフトウェア・サービス機能

情報機器

エレベーター

建設機械

ATM

産業機器

鉄道

保守サービス

医療機器

社会イノベーション事業

(IT+Productsによる顧客課題の解決)

→ 社会・産業インフラと情報・制御システムの両方の技術を持つ日立が提供できる付加価値

モノ単体の製造・販売事業

\*1) 「お客さま起点」でイノベーションを創造。フロントに営業、コンサルティング、エンジニアリング等リソースを集中・強化

\*2) イノベーションをサービスとして提供する情報・制御プラットフォーム

## 製品保守や業務運用などサービス売上高は拡大 高収益なサービスの拡充を強化

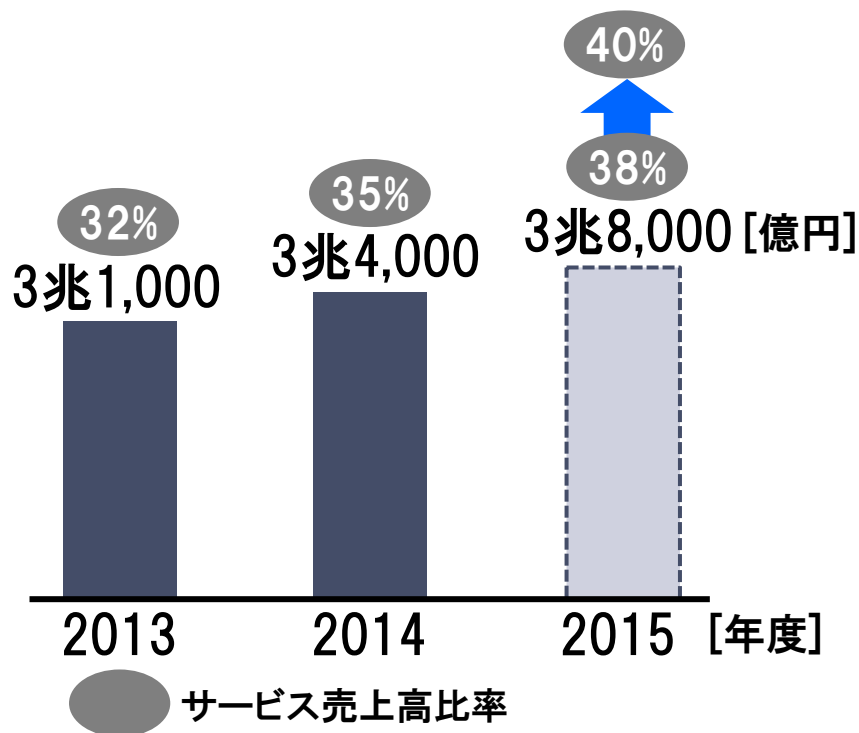
### サービス売上高比率

2015年度当初目標

40%超

2015年度見通し

38%



### 2014年度までの進捗

- 製品・設備の遠隔監視用クラウドなどを整備し、保守サービスを強化
- BPOなど情報事業の業務運用サービスが拡大

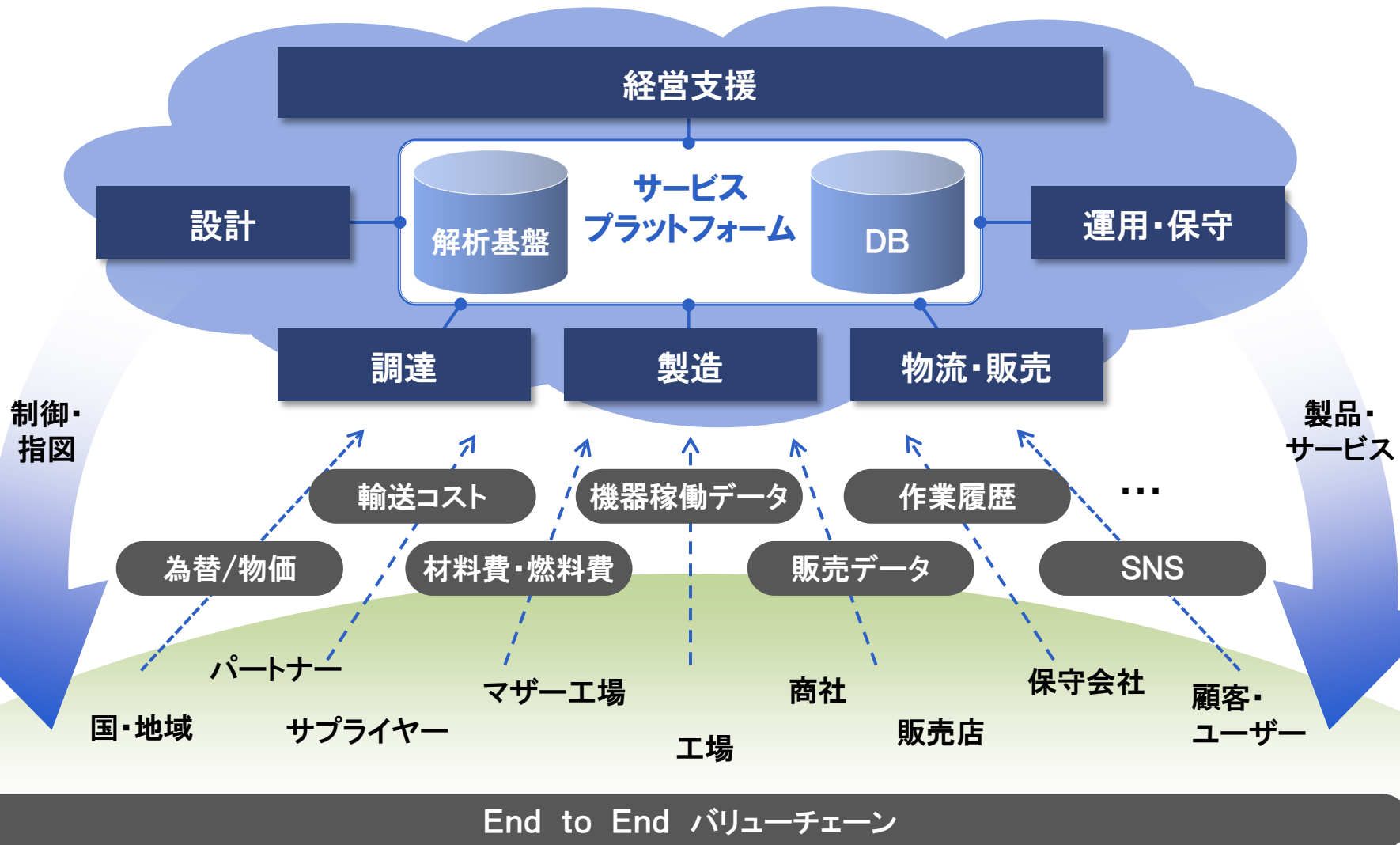
### 2015年度の施策

- 長期フィー型サービス事業の拡大 (鉄道、エネルギー)
- 社会インフラ分野への通信技術の活用 ⇒IoTサービスの拡大
- IT(アナリティクス)活用サービスの充実

\* BPO: Business Process Outsourcing

# 1. 日立のビジネス状況 ~IoTを用いたトータルバリューチェーンマネジメント

- 実世界からのさまざまなデータを自在に組み合わせ、課題にいち早く対応



# 1. 日立のビジネス状況 ～事例①

## 事例 IoTを駆使した鉱山ソリューション事業

## 事例 スマートシティの中核となるエネルギー管理システム



# Contents

---

1. 日立のビジネス状況
2. 知財から見たチャレンジ

## IoT時代の価値創出



## 事業上のキーファクター

現場の本質的課題の把握

オープンなデータ連携環境

人工知能、セキュリティ等

## 知財から見たチャレンジ

①お客様との協創

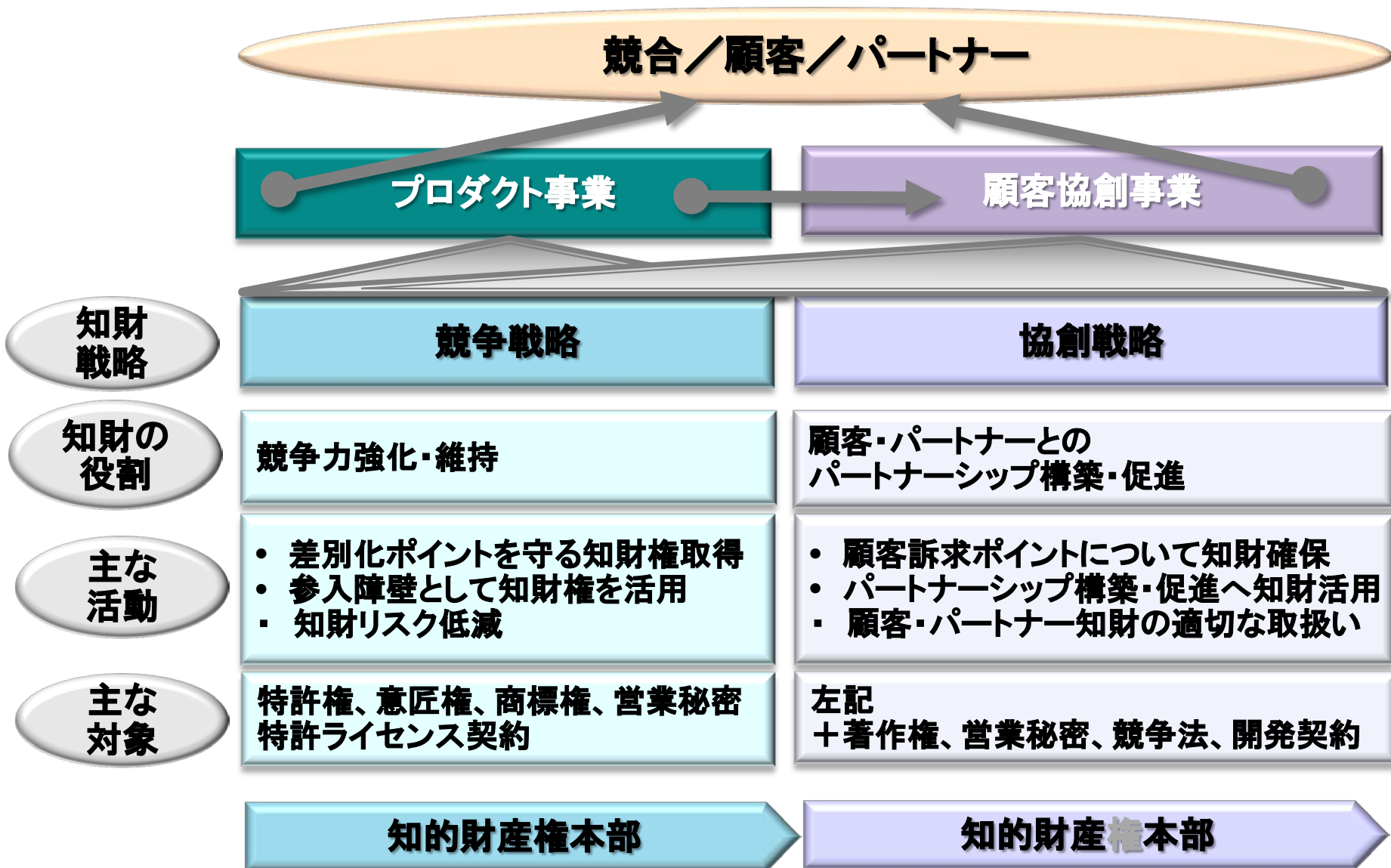
②データ利活用の自由度

③標準化

④オープンソースソフト(OSS)

⑤Open/Close戦略の進化

# ① お客様との協創



## ② データ利活用の自由度

### データや知見の蓄積による規模の経済が事業成功の鍵

特許権や著作権の保護を受けられないようなデータや知見につき、  
契約によりデータの処分権・利用権\*を確保

\*）知的財産法がカバーしない領域においても、デジタル技術を用いた情報の囲い込みにより、契約がdominantになり、事実上の知的財産権が私的に創造される

参考：中山，「知財研10周年記念論文集『21世紀における知的財産の展望』」，雄松堂出版，2000.5.

### 契約上の検討事項例

データの内容・提供方法・仕様

利用範囲・取扱条件

データに知財権が認められる場合の権利の  
帰属先

対価

データ提供者の義務

データ受領者の義務

遵守事項

不可抗力免責

契約解除、期限の利益喪失

秘密保持義務

知財へのチャレンジ	制約	知財活動
①お客様との協創	顧客課題の把握と顧客との関係構築が重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 顧客訴求ポイントの知財確保</li> <li>➤ パートナーシップ構築・促進へ知財活用</li> <li>➤ 顧客・パートナー知財の適切な取扱い</li> </ul>
②データ利活用の自由度	データや知見の蓄積による規模の経済が事業成功の鍵	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 契約等によりデータの処分権・利用権を確保</li> </ul>
③標準化	多様なコンソーシアムにおいて、	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 技術仕様策定範囲・IPポリシーと自社ビジネスモデルの整合の確認</li> </ul>
④オープンソースソフト (OSS)	(i) 相互運用性のための技術仕様の策定 (ii) OSSの提供等が進展	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ OSSライセンスの波及とOSS活用のメリットの比較衡量</li> </ul>
⑤Open/Close戦略の進化	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 対象の拡大</li> <li>▪ 二元論以外の選択枝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 多元・多軸の知財戦略の検討</li> <li>➤ 知的財産権だけでなく、知的財産や契約関係も包含した戦略</li> </ul>

**HITACHI**  
Inspire the Next